

第9回 景観専門委員会 議 事 要 旨

【日時及び場所】

日 時：平成20年7月8日(火) 14:00～16:00

場 所：くにびきメッセ 6階大会議室

【出席者】

景観専門委員会

布野委員長、藤岡委員、藤田委員、松本委員、吉田委員

行政関係者

国土交通省出雲河川事務所：林事務所長、土江大橋川コミュニティーセンター長

島根県：神長土木部長、玉串土木部次長、佐藤斐伊川神戸川対策課長

松江市：中村副市長、松本市長室次長

事務局

国土交通省出雲河川事務所大橋川改修推進室

島根県土木部斐伊川神戸川対策課

松江市市長室大橋川治水事業推進課

【一般傍聴者及び報道関係者】

一般傍聴者：31人

報道関係者：8社

【議事次第】

開 会

挨拶(国土交通省出雲河川事務所長)

議 事

1. 各区間の河川景観のイメージについて
2. 大橋川沿川の景観に関する基本計画(案)の構成について

閉 会

【配布資料】

資料1 各区間のイメージパース

資料2 大橋川沿川の景観に関する基本計画(構成案)

参考資料1 第8回景観専門委員会 議事要旨

参考資料2 各区間の景観整備目標及び達成するための基本的な考え方
(第8回景観専門委員会 資料1)

【議事概要】

1. 各区間の河川景観のイメージについて

<上流部（松江大橋～新大橋間）について>

- ・北岸のパラペットが部分的に途切れている部分は、洪水時には土嚢を積んで塞ぐ作業をしなければならないと思うがどうか。

河川管理施設としては、パラペットは途切れていない方が良いが、人の出入りに配慮する場合、扉で密閉することを前提にパラペットの一部を開けることは可能である。

- ・景観的な視点において、パラペットには抵抗があるという意見が非常に多いので、出来ればベンチくらいの高さで抑えたいという思いがある。
- ・北岸のケース で水辺の平場は、どれくらいの頻度で水に浸かるのか。
平均水位を基に設定している。1年間のうち半分ぐらいの日数は水に浸かるが、平場の高さを変えることは可能である。
- ・平場の高さは、利用の頻度や水の近さに配慮する必要があり、今後の検討課題と思う。
- ・北岸はケース が現況に近いと思う。ケース は平場が少しでも水をかぶると、ゴミや泥が溜まるので維持が大変な気がするが、雰囲気は今と遜色がなく良い感じがする。
- ・北岸は大橋川でも一番顔になる景観だと思う。島石の石積み、柳並木、水際に点在する捨石が見え隠れするような景観は、現状の景観をそのまま表現出来ていると思う。
- ・水際の利用については、水際を使うのか、使わずに見せる護岸とするのかがポイントである。
- ・北岸は下を歩くことを重視するか、上から見れば良いのかという2つの案が頭の中で交錯している。下を歩く案については、平場の幅をもう少し狭くし、下も歩ける程度の中間案があっても良い。
- ・パラペット部分は、歩く位置を考慮したバリエーションがあっても良く、工夫の余地がある。
- ・北岸はケース が良い。
- ・北岸は現状では水際には近づけないので、現状の景観を生かしつつ、人が所々の階段から下に降り、水際でくつろげる空間があっても良い。その水際には捨石を上手に配置すれば波が緩衝され、砂が溜まれば植物が少しずつ点在し、それが風情にも繋がる。また、捨石の代わりに如泥石を据え付ければ、水際の風情と松江らしさを演出することが可能である。
- ・南岸に船を着けるようにすると平場の部分が必要になるが、左右岸で揃っていた方が良いので、北岸も併せてはどうか。
- ・南岸には松江大橋橋詰めに源助公園があり、出来るだけ今の姿を復元するという意見が委員会の中で多かったことに配慮し、ある程度は石積護岸が伸びている方が北側との調和が図れると思う。
- ・南岸の源助公園の雰囲気を残すことに賛成であり、広場の部分については、どこからでも水面が見え、川に近い場所で様々な活動が出来るように川に向かって緩い傾斜にしてはどうか。
- ・木を植えて良い区域であれば、広場の部分を川に向かって緩い傾斜とし、多くの木を植えれば、川の中に森があるようなイメージを創り出せる。南岸は、北と南の石による調和ということではなく、一部源助公園のところは共通しているが、その他は違う個性のある形にしてはどうか。
- ・源助公園をイメージしたところは、その下流と同様の水際ではなく、途切れた方がアクセントになると思う。

- ・南岸は現状と同様に木がたくさん生えている感じで、源助公園はパースのように橋のたもとのポイントとなり、他の場所とは違う雰囲気のある場所にするべきである。
- ・以前、合同汽船が停まっていたので、船着場という機能は必要である。

<上流部（新大橋～くにびき大橋間）について>

- ・ヨシは自然の風景の原点のような感じがあり、くにびきメッセの辺りは広々と生え寂漠とした荒れ野原というイメージもあるので、上流からくにびきメッセまではヨシを止めた方が良い。
- ・北岸は現状の船着き場の機能を取り入れつつ、静閑な景観の方が良い。
- ・南岸は港湾施設の条件にもよるが、水際が遙か先まで単純な感じがするので、多様性を持たせた工夫が出来れば良い。

<中・下流部について>

- ・中流部の北岸は農地の広がりの中に植生豊かな自然護岸が連続し、その中にピオトープのような空間や水辺の遊び場が点在するようなイメージが良い。
- ・中流部の南岸は住宅地とその背後に残る農地が連続し非常に快適な空間である。ここはサイクリング、水際の憩いの場、周辺の子供達の魚釣りなど、楽しめる空間になれば良い。背後にある緑は、将来残らない場合もあるので、点的に植物があっても良い。
- ・下流部の矢田の渡し付近は歴史的背景のある川沿いなので、背景に見える多賀神社や社、山と川面が自然な感じで調和するような景観が良い。
- ・下流部の南岸は市道の機能とともにゆとりのある歩道が欲しい。水際には緑がある程度連続している方が相応しい。
- ・中流部・下流部は矢田の渡しのところを含めてこれで良い。
- ・中流部・下流部において、2割の法面が多いが、具体的にどうするのが課題である。現地盤を掘削し、堤防としての機能が必要ないようなところについては、自然な形にすり付けられれば良いし、いずれ植生が自然に生えることを考えれば、2割の法面にこだわる必要はない。

下流部北岸のパースに描いている付近は、拡幅する箇所であり、掘込河道なので堤防は必要ない。さらに下流の水田の辺りや中流部北岸については、堤防は必要となる。

- ・中流部・下流部はこのような雰囲気になれば良い。ただし、パースでは表現出来ていないが、多賀神社の杜や矢田の渡し周辺の扱いは、今後の検討課題である。

2. 大橋川沿川の景観に関する基本計画（案）の構成について

- ・河川景観の整備方針について、具体的な素材の提案など、もう少し方向性を示す提案を記載した方が良いのではないか。
- ・大橋川沿川のまちづくりに向けてのその他の提言について、護岸部分は背後のまちづくりとも関係するので、景観行政団体である松江市に大橋川沿川景観形成区域を指定をしていただき、背後を含めた範囲について景観指針となるものを検討することを提案したい。
- ・具体的な護岸のデザインについて、設計する段階で骨抜きにならないよう、決め方のプロセスを提案しておいた方が良い。例えば、松江大橋～新大橋間の南岸は、まちづくりと連携して住民の意見を聞きながら決定するぐらいは記載しておく必要がある。

- ・河川景観の整備方針について、一つに決めることが出来るものと、基本的な考え方はあるが、幅を持っている事項をまちづくりや住民の意見を十分に反映させて決めていくものとを、表現の方法を工夫してまとめることが重要である。
- ・景観はまちづくりだけでなく、生態系や河道設計とも関係するので、景観の主旨を生かす上でそれらの重要な柱の関係について記載し、重要なものは参考資料ではなく本編に入れた方が良い。
- ・基本計画という形で決めると、変更出来ないような感じがするので、幅を持たせた形でまちづくり検討委員会へ提案し、流動的に対応してもらう方が良い。
- ・上流部の北岸が一番関心がある場所なので、提示されたケースで良いとある程度自信を持って言えるが、一方、南岸はまだ自分の頭で検討しきれておらず、同じレベルでまちづくり検討委員会には上げられない感じがする。
- ・河川景観の整備方針として、護岸のあり方のようなものを言葉や基本的なデザインで決めておく必要がある。その上で沿川道路や水際の具体的な利用方法によっていくつかのパターンが想定されるので、全体の護岸デザインを持ちつつその役割に応じたデザインを挙げておく必要がある。また、水際、護岸、平場の留め部分などの素材や、ゾーン毎の緑の扱いについて触れておく必要があると思う。
- ・景観に関する基本計画（案）をまちづくり検討委員会へ提案し、その後住民の方々からいろいろな意見が出た場合の対応は重要である。

了